

ごあいさつ

当会(神奈川県信用農業協同組合連合会(略称「JA神奈川県信連」))は、昭和23年の設立以来、県内JAとともに「農業の専門金融機関」として農家経営の向上に資するとともに、「地域金融機関」として組合員・利用者のニーズに応え、地域社会の発展に役立つ金融機関を目指した業務展開に努めております。

この度、当会の事業・経営に対する一層のご理解をいただくため、最近の業績や業務内容を取りまとめた「DISCLOSE 2021」(ディスクロージャー誌)を作成いたしました。ご一読いただければ幸いです。

令和2年度は、世界的な新型コロナウイルス感染症の拡大により、経済活動や社会生活に甚大な影響が生まれました。

具体的には、令和2年4月の緊急事態宣言の発令以降急速に悪化したわが国経済は、宣言解除後の政府の緊急経済対策により景気の持ち直し傾向は見られたものの、感染の再拡大を受けた令和3年1月の緊急事態宣言の再発令等、回復が見通せない厳しい情勢が続きました。

JAバンク神奈川における事業としても、外務活動の制約、各事業所における感染拡大防止への対処、イベントの中止等、大きな影響が生まれました。

このような大変厳しい情勢下でありましたが、ウィズ・コロナの観点を踏まえ、WEBを活用した取組みなどにより積極的に事業を展開した結果、JAバンク神奈川の重点注力分野として設定している「資産・相続相談機能強化支援」、「投資信託販売支援」、「貸出金伸長支援」、「店舗・ATM再編支援」等を中心に一定の成果を挙げることが出来ました。また、有価証券等の効率的な運用やリスク管理の徹底に努めた結果、当会の令和2年度決算については、所期の目標を達成することが出来ました。

令和3年度は、現行中期経営計画の最終年度であるとともに、次期中期経営計画(令和4～6年度)を策定する年度であります。

足元から次期中期経営計画期間中は、低金利環境が継続する可能性が高く、収益環境は引き続き厳しい状況が見込まれるとともに、デジタルを活用したアフターコロナ時代における新たな働き方や、SDGsなどの社会的課題へしっかりと対応していく必要があるものと認識しています。

このような課題に対し、役職員一丸となり対処し、引き続き、組合員・利用者・会員JAの負託に応え、「農業と地域の未来」に貢献していく所存でございますので、引き続きのご支援・ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

令和3年7月



経営管理委員会会長
大川 良一



代表理事理事長
秦 道喜